

令和元年度 第1回屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会
議事次第

日時：令和元年6月14日（金） 9:00～12:00

場所：屋久島町役場本庁 2階会議室

1. 開会

2. あいさつ・出席者紹介

3. 議事

- (1) これまでの検討結果と本年度の検討内容について
- (2) 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（最終版）について
- (3) 施設の整備と維持管理について
- (4) 利用者管理とサービスの提供について

4. その他

令和元年5月の豪雨について

5. 閉会

《配布資料》

【議事次第・出席者名簿】

【資料1】設置要綱

【資料2】検討全体スケジュールについて

【資料3】検討会の設置趣旨と検討内容について

【資料4】各登山ルートのあるべき利用体験ランク（最終版）

【資料5】「登山道ごとの施設整備・管理方針・方策」作成の考え方（案）

【資料6】「利用者管理とサービスの提供」作成の考え方（案）

【参考資料1】屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部適正利用ビジョン
（平成30年度までの記載内容）

【参考資料2】平成30年度第4回検討会議事録

令和元年度 第1回屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会
出席者名簿

委員

(五十音順)

氏名	所属・役職等	備考
柴崎 茂光	国立歴史民俗博物館 准教授	
土屋 俊幸	東京農工大学大学院 教授	
吉田 正人	筑波大学大学院 教授	

関係行政機関

氏名	所属・役職等	備考
	九州森林管理局 計画課	欠
西 純一郎	屋久島森林管理署 署長	
黒木 興太郎	屋久島森林生態系保全センター 所長	
山部 国広	屋久島森林生態系保全センター 自然再生指導官	
眞邊 健人	鹿児島県 環境林務部 自然保護課 主事	
迫田 憲治	鹿児島県 PR・観光戦略部観光課 観光地づくり係 技術主幹兼係長	
立和名 伸一	鹿児島県 PR・観光戦略部観光課 観光地づくり係 技術主査	
成田 清	鹿児島県 熊毛支庁屋久島事務所長	
田中 省吾	鹿児島県 熊毛支庁屋久島事務所 総務企画課参事付	
	鹿児島県教育庁 文化財課	欠
木原 幸治	屋久島町役場 観光まちづくり課 地域振興担当総括係長	
羽生 尚博	屋久島町役場 観光まちづくり課 地域振興係長	
鹿島 大夢	屋久島町役場 観光まちづくり課 地域振興係 主事	
網戸 正博	屋久島警察署 地域課長	

地域関係団体

氏名	所属・役職等	備考
讃岐 斉	公益財団法人屋久島環境文化財団屋久島環境文化センター 研修課長	
榎 光徳	屋久島町議会 議員	
	屋久島町区長連絡協議会 会長	欠
日高 順一	屋久島観光協会 事務局長	
中馬 慎一郎	屋久島観光協会 ガイド部会長	
古賀 顕司	屋久島山岳ガイド連盟 代表	
真辺 尚子	屋久島山岳ガイド連盟	
	屋久島レクリエーションの森保護管理協議会	欠
中川 正二郎	宮之浦岳参り伝承会 会長	

オブザーバー（屋久島科学委員）

氏名	所属・役職等	備考
荒田 洋一	屋久島世界遺産地域科学委員	
大山 勇作	屋久島世界遺産地域科学委員	
日下田 紀三	屋久島世界遺産地域科学委員	

事務局

氏名	所属・役職等	備考
松永 暁道	九州地方環境事務所 国立公園課長	
千田 智明	九州地方環境事務所 自然環境整備課長	
家入 勝次	九州地方環境事務所 国立公園課 課長補佐	
柘植 規江	屋久島自然保護官事務所 首席自然保護官	
木滑 黄平	屋久島自然保護官事務所 自然保護官	
水川 真希	屋久島自然保護官事務所 自然保護官補佐	
池田 裕二	屋久島自然保護官事務所 自然保護官補佐	
高橋 雅美	一般社団法人日本森林技術協会	
植松 優介	一般社団法人日本森林技術協会	

屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会 設置要綱

(目的)

第1条 世界自然遺産地域を含む屋久島国立公園の山岳部の自然環境を保全するとともに、山岳部利用者に屋久島らしい質の高い利用体験を提供することを目指し、山岳部利用のビジョンを定め、施設の整備及び維持管理、利用者管理並びに情報提供等の適切な管理方策を検討するため、有識者等による「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」（以下、「検討会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 山岳部利用に関する基本理念及び基本方針に関する事項
- (2) 利用に関するゾーンの設定及びゾーンごとの目標（提供する利用体験の質、想定する利用者レベル等）に関する事項
- (3) 利用施設の整備の計画、水準及び維持管理の方策等に関する事項
- (4) 利用者管理並びに情報提供に関する事項
- (5) モニタリングに関する事項
- (6) その他山岳部利用に関する必要な事項

(検討範囲)

第3条 検討会における検討の範囲は、屋久島国立公園屋久島地域の山岳部とする。ただし、登山道等歩道が国立公園外から国立公園内に至るもの等合わせて検討することが適当な場合には、国立公園周縁部分も検討範囲に含めて検討する。

(構成)

第4条 検討会は、九州地方環境事務所長から委嘱された有識者等並びに別紙に掲げる行政機関及び地域関係団体により構成する。

- 2 屋久島世界遺産科学委員会の委員は、オブザーバーとして検討会に出席することができるものとする。

(運営)

第5条 検討会は、座長が招集し、議事進行を行う。

- 2 座長は、検討委員の互選により選出する。
- 3 座長は、必要に応じて、検討委員以外の有識者等に対し、検討会への出席を求めることができる。
- 4 座長は、オブザーバーとして出席している屋久島世界遺産科学委員会の委員に対し、

発言を求めることができる。

5 座長は、自らが検討会に出席出来ない場合、検討委員の中から座長代理を指名することとする。

6 検討会は、原則として公開とし、議事については議事要旨を公開するものとする。なお、資料についても原則公開とするが、公開することが不適切なものについては座長の判断で非公開にできる。

(事務局)

第6条 検討会の事務局は、九州地方環境事務所及び九州地方環境事務所より委託された者が務める。

(その他)

第7条 上記に定めのない事項で、検討会の運営に必要なものについては、別に定める。

(附則) この要綱は、平成28年12月25日から施行する。

(別紙)

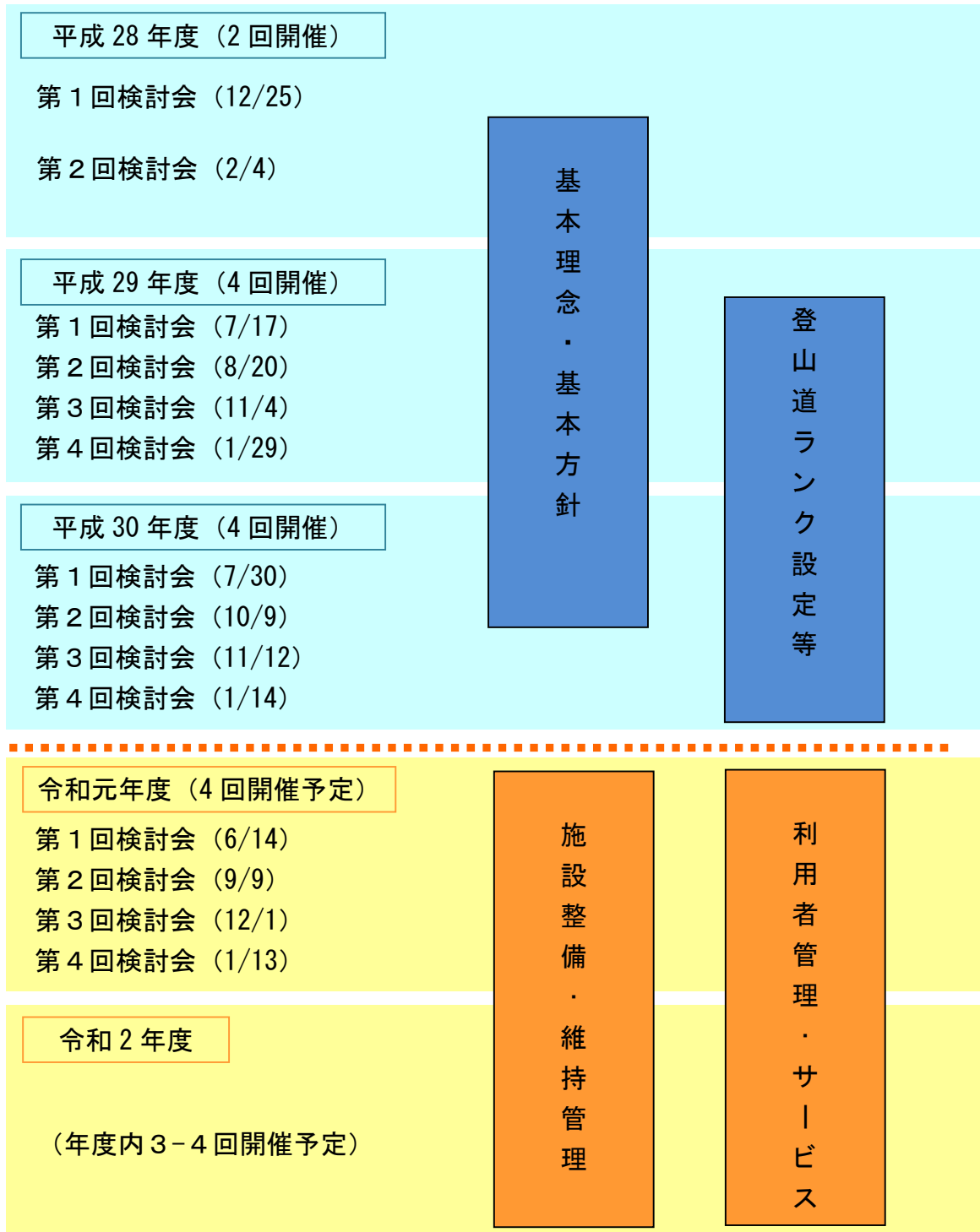
【関係行政機関】

九州地方環境事務所
九州森林管理局
鹿児島県
鹿児島県教育委員会
屋久島警察署
屋久島町

【地域関係団体】

公益財団法人屋久島環境文化財団
屋久島町議会
屋久島町区長連絡協議会
（公社）屋久島観光協会
屋久島山岳ガイド連盟
屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
宮之浦岳岳参り伝承会

検討全体スケジュールについて



検討会の設置趣旨と検討内容について

1. 趣旨

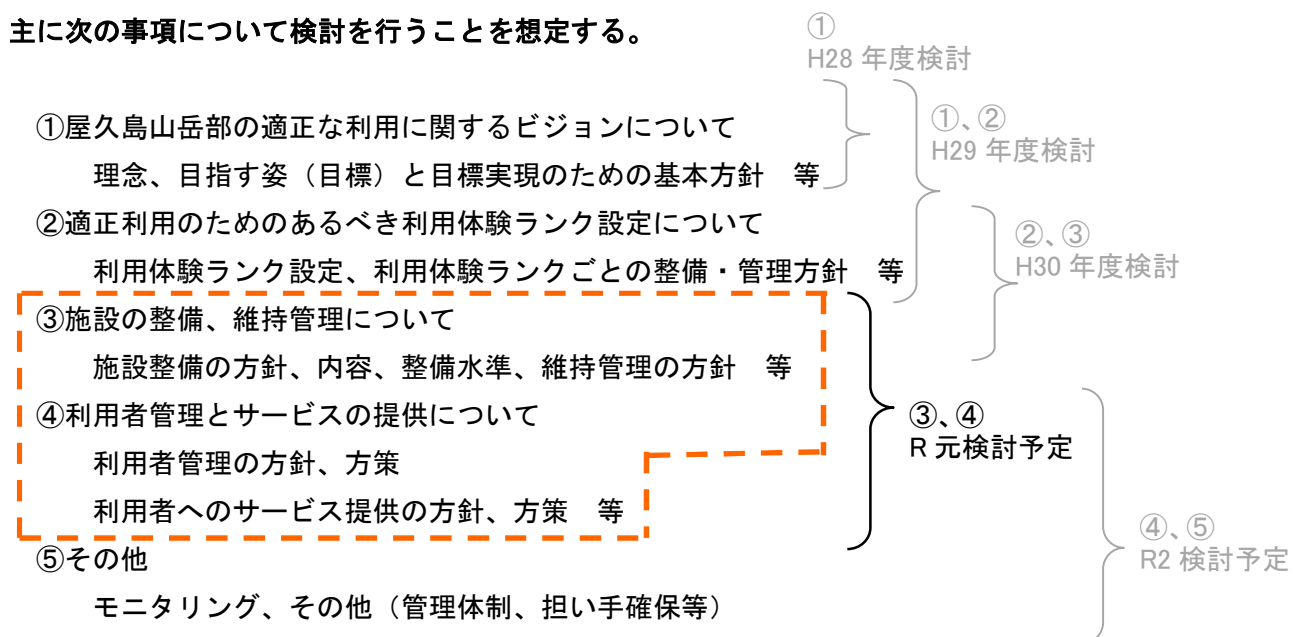
- ・屋久島の山岳部は、世界遺産登録以後、入山者が増加し、登山道沿いの植生荒廃、施設の整備・維持管理、利用の集中による体験の質低下などの課題が発生した。しかし2008年以後は来島者が減少傾向に転じ、山岳部利用のあり方が転換期を迎えている。
- ・縄文杉登山はじめとする登山利用は、屋久島の重要産業である観光の大黒柱となっており、今や登山者の増減は島の社会・経済にも影響を及ぼす。
- ・登山利用に関して、これまで植生の保護や利便性のための施設整備と、し尿処理等の維持管理に追われ、個別テーマについて議論等する際には議論の欠落が指摘されつつも山岳部全体の適正な利用についての議論ができず、世界自然遺産・国立公園管理者として計画的で前向きな利用体験の提供、利用者管理ができずにいた。
- ・このため、国立公園山岳部の自然環境を適切に保全して次世代に継承するとともに、山岳部利用者には屋久島らしい質の高い自然体験を提供することを目指して、利用についてのビジョンを定め、利用体験ランクに基づく施設の整備や利用者管理方策、サービス等を検討するための検討会を設置することとした。
- ・検討会では、利用者に屋久島らしい質の高い利用体験を提供するため、「山岳部の適正ビジョン」を作成する。
- ・2019年5月の豪雨では、鉄砲水や大規模な土砂災害が発生した。幸いにも登山者・観光関係者に死者はでなかったものの、屋久島山岳利用の安全な利用に関しても、本ビジョンに反映させる必要がある。

■山岳部の適正利用ビジョン（仮）■

1. 作成目的
 2. 背景
 - (1) 屋久島（山岳部）の特徴と価値
 - (2) 屋久島の歴史と社会の変遷
 - (3) 屋久島山岳部の保護と利用の状況
 - (4) 屋久島山岳部の保護と適正利用に関する取り組み経緯
 - (5) 屋久島山岳部の保護と適正利用の課題
 - (6) その他
 3. 対象区域
 4. 基本理念と基本方針
※理念、目指す姿（目標）と目標実現のための方針
 5. 適正利用のためのあるべき利用体験ランクの設定
 6. あるべき利用体験ランクごとの（管理）目標・方針
 7. 施設の整備と維持管理
 - (1) 施設の整備
※整備の方針や内容、施設整備水準の設定
 - (2) 施設の維持管理
※維持管理の方針・方策
 8. 利用者管理とサービスの提供
 - (1) 利用者管理
※例：利用コントロール、ルールなど
 - (2) サービスの提供
※例：情報提供方策など
 9. モニタリング
※モニタリング項目・基準
 10. その他（管理体制・担い手確保等）
- 1章、2章
H28年度記載
(随時 精査修正追記)
- 3章、4章
H29年度記載
- 5章、6章
H30年度記載
- 令和元年度の到達目標
- 7章、8章
R元年度記載予定
- 9章、10章
R2年度記載予定

2. 全体の検討内容（予定）

主に次の事項について検討を行うことを想定する。



3. 年間スケジュール

第2回検討会からは、検討会の前日に作業部会を開催予定としている。

また、第3回検討会は午前・午後の二部構成として、一部では専門家を招請して山岳トイレをはじめとする山岳施設、施設整備、維持管理について発表していただき、発表後には屋久島の山岳トイレ利用や施設整備等の方向性について討議をし、二部は検討会開催を予定している。

検討会・作業部会	開催日	時間
第1回検討会	6月14日(金)	9:00~12:00
第1回作業部会	9月8日(日)	夕方以降（開催時間は適宜設定）
第2回検討会	9月9日(月)	9:00~12:00
第2回作業部会	11月30日(土)	夕方以降（開催時間は適宜設定）
第3回検討会	12月1日(日)	一部、専門家からの発表 10:00~11:30
		二部、検討会 13:00~16:00
第3回作業部会	1月12日(日)	夕方以降（開催時間は適宜設定）
第4回検討会	1月13日(祝月)	9:00~12:00

4. 検討会と作業部会のメンバー構成と役割分担

本年度は③施設の整備、維持管理、④利用者管理とサービスの提供について策定することとしている。限られた時間で③・④の策定や、施設の整備・維持管理する管理者についての検討をスムーズに進めるため、作業部会を設置する。

③については、検討会において検討、

④については、作業部会において大枠を検討し、検討会において合意を得ることを想定している。

作業部会については、利用者に接する機会の多い観光協会やガイド関係者を主としたメンバー構成を想定している。

第1回検討では作業部会の構成メンバーを決定したい。

■作業部会の構成メンバー（案）、10名程度を想定

- ・屋久島観光協会
- ・屋久島観光協会ガイド部会
- ・屋久島山岳ガイド連盟
- ・アクティブ・レンジャー経験者
- ・グリーン・サポート・スタッフ経験者
- ・屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
- (・デザイン関係の従事者)

3. 令和元年度の検討の進め方（検討会、作業部会）

項目	【4.ビジョンと基本方針】 【H30年度第1回検討会で成案】	【5.適正利用のための あるべき利用体験ランク設定】 【H30年度第4回検討会で大方合意】	【6.あるべき利用体験 ランクごとの（管理）目標・方針】 【H30年度第4回検討会で成案】	【7.施設整備と維持管理】	【8.利用者管理とサービスの提供】
<p>第1回 検討会 (6月14日)</p> <p>第1回 作業部会 (9月8日)</p>	<p>【一言フレーズ】</p> <p>候補の提示</p>	<p>①H30年度第4回検討会で大枠 合意した後、修正した箇所につ いて報告 【R元年度第1回検討会で成案】 予定</p>		<p>①、区間ごとの水準設 定の考え方</p> <p>※作業部会メンバーの選定</p>	<p>①、主に利用者への情報 提供についての考え方</p>
<p>第2回 検討会 (9月9日)</p> <p>第2回 作業部会 (11月30日)</p>					
<p>第3回 検討会 (12月1日)</p> <p>第3回 作業部会 (1月12日)</p>				<p>②、【5.適正利用のための あるべき利用体験ランク 設定】を基に水準を考える</p> <p>③、特に重複している区間 については、避難小屋やト イレの取り扱い、利用の仕 方を踏まえて、どういった 水準にしていくのか、検討 が必要</p> <p>④、②③を踏まえて、区間 ごとに水準を当てはめる。</p> <p>※区間ごとの管理主体に ついては行政間で調整</p>	<p>②、【5.適正利用のための あるべき利用体験ランク 設定】を基に考える</p> <p>③、一般的な利用に向け て、利用者が求める情報、 提供すべき情報を整理す る</p> <p>④、情報提供の手法の整 理</p> <p>⑤、②③④を踏まえて、一 般的な利用できるように、 追加・修正を加える</p>
<p>第4回 検討会 (1月13日)</p>				<p>【第4回検討会で合意】</p>	<p>【第4回検討会で合意】</p>

図1 検討項目ごとの流れ

各登山ルートのあるべき利用体験ランク(最終版)

目指すべき将来像（5年度から10年度程度）として、屋久島の登山道でどのような利用者にどのような体験をしてもらいたいのか、という観点から、想定される利用体験の質を5段階に区分し、段階ごとのあるべき利用体験を設定した（表2）。また、5段階に区分した利用体験は、各登山ルートに当てはめ、平成30年度第4回検討会に提示し大枠の合意を得たところである。

本年度第1回検討会では、議論の結果を踏まえて修正した「各登山ルートのあるべき利用体験ランク」（表3、表4）を提示し、検討会内で構成メンバーの合意を得て、確定することを予定している。

1. 利用体験ランクを設定する対象登山ルート

平成元年度第4回検討会において一般的な利用が想定されないなどの意見のあったルートの削除やルートの変更等を行い、29ルートを対象とした（表1）。

表1 あるべき利用体験ランク検討対象ルート

区分	No.	対象ルート
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
淀川入口～ 荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
淀川入口～ 白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
永田歩道・ 花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	8	淀川入口～花山歩道入口 1泊
	9	淀川入口～永田歩道入口 1泊
モッコヨム岳	10	モッコヨム岳往復 日帰り
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース
	14	ヤクスギランド80分コース
	15	ヤクスギランド150分コース
	16	ヤクスギランド210分コース
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道 1泊
湯泊歩道・ 栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊

2. 利用体験ランク設定の前提条件

平成元年度第4回検討会において、利用体験ランクを設定する上での前提条件は魅力、利用体験の質、体力、リスクなど複数あることから、それを整理し明記することが必要であるとされたことから、以下のような前提条件とする。

- ・「利用体験ランクは、5年後から10年後に目指すべき将来像として、各登山ルートでのあるべき利用体験ランクの質を5段階で示したものとす。」
- ・「利用体験ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況を踏まえた総合的な判断とする。」

3. 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（修正版）

「4. ビジョンと基本方針」での「未来像・目標（50年後の目指す姿）」を踏まえ、5年後から10年後に目指すべき将来像として、屋久島の登山道でどのような利用者にどのような体験をしてもらいたいのか、という視点から、想定される利用体験の質を以下の5段階に区分し、5段階のあるべき利用体験ランクを設定し、第4回検討会にて合意した（表2）。

表2 想定される利用体験の質（5段階に区分）

ランク1	屋久島山岳部の自然にふれあう探勝ルート
ランク2	屋久島山岳部の自然を楽しむトレッキングルート
ランク3	屋久島山岳部の自然を体感できる登山道
ランク4	屋久島山岳部の原生的な自然を体感できる登山道
ランク5	屋久島山岳部の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる登山道

表3 対象登山ルートのあるべき利用体験ランク整理表

利用体験 ランク	No.	ルート
1	13	ヤクスギランド30分・50分コース
	19	白谷雲水峡 弥生杉コース
2	14	ヤクスギランド80分コース
	15	ヤクスギランド150分コース
	16	ヤクスギランド210分コース
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩 往復
3	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
	10	モッコム岳往復 日帰り
	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
4	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
	11	愛子岳往復 日帰り
	12	龍神杉往復 日帰り
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	
5	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊
	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊
	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊

表4 各登山ルートのあるべき利用体験ランクとランク選定理由

区分	No.	ルート	利用体験 ランク	利用体験ランク選定理由	備考・留意点
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・グループ討議において、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。 ・日帰りではなく高塚小屋等を利用する宿泊想定の場合、より深い利用体験を得ることができる(人の少ない静かな状態で縄文杉を見ることができる、など)。
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定であり、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体験することができる。	・宿泊は高塚小屋の利用を想定。 ・H30第4回検討会において、荒川登山口往復コースよりも、峠を1つ多く越えることから体力が必要との指摘があった。
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3	・魅力として奥岳の原生的な自然を体験できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。	
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4	・グループ討議での議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・グループ討議において、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
淀川入口～荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4	・グループ討議での議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
淀川入口～白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
永田歩道・花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・第3回検討会において、「湯治歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なるルートとすることを旨とし、適切な整備・管理水準とすることを想定。 ・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
モツチョム岳	10	モツチョム岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体験できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体験できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石畳などを楽しむことができるルート。また、トロッコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・渡渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1	・第3回検討会時に決定。	
	14	ヤクスギランド80分コース	2	・コースタイムや距離は比較的に短い、整備状況等を踏まえランク2を想定。	
	15	ヤクスギランド150分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
	16	ヤクスギランド210分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスキの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体験できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体験できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いしやすい箇所がある」という意見が挙げられた。
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1	・グループ討議での議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。	・グループ討議において、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3	・グループ討議での議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体験できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体験でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体験できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
湯治歩道・栗生歩道	26	湯治歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・原生的な自然を静かに体験できる現状の整備水準や利用状況を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。 ・コースタイムや距離から日帰り行程が可能ではあるが、アクセスルートが崩壊しており、登山口への到達が困難かつ時間がかかる状況であることから、例外としてランク5を想定。	・第4回検討会において、「登山口までの林道の崩壊によりアクセスが困難であるとともに、登山口が非常に分かりづらい。」との意見が挙げられた。 ・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯治歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。

区分	No.	対象ルート	利用体験 ランク
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4
淀川入口～ 荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4
淀川入口～ 白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4
永田歩道・ 花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5
	8	淀川入口～花山歩道入口 1泊	5
	9	淀川入口～永田歩道入口 1泊	5
モッコヨム岳	10	モッコヨム岳往復 日帰り	3
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1
	14	ヤクスギランド80分コース	2
	15	ヤクスギランド150分コース	2
	16	ヤクスギランド210分コース	2
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～ 太鼓岩～奉行杉コース～入口	3
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道 1泊	5
湯泊歩道・ 栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5
楠川歩道	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5
	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～ 楠川歩道入口 1泊	4

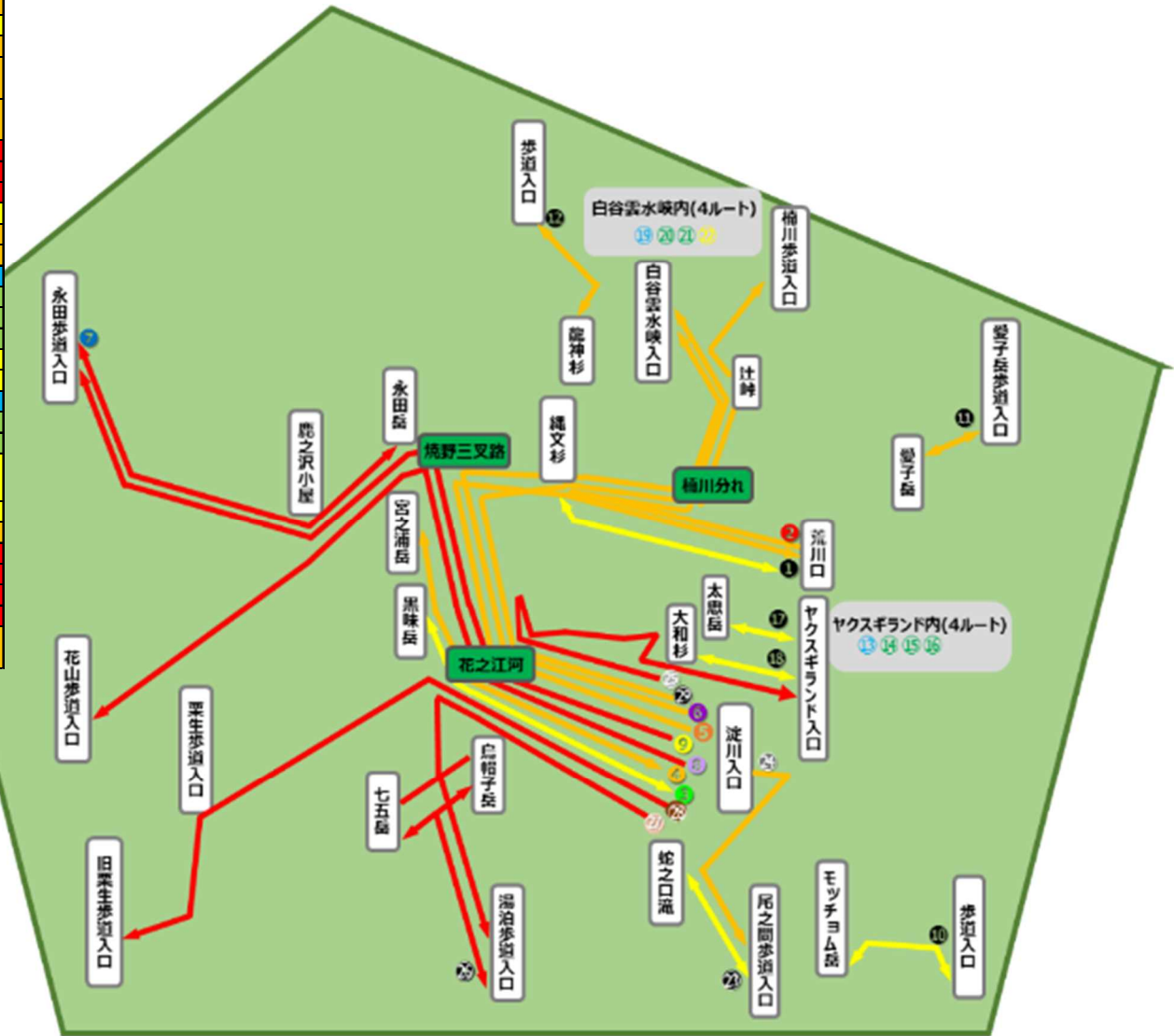


図1 対象登山ルートへのルート図 (あるべき利用体験ランクにより色分け)

「登山道ごとの施設整備・管理方針・方策」作成の考え方(案)

同一ルートでも、施設整備と維持管理の水準は区間ごとに検討し作成する。稜線部等のルートが重複している「区間」ではあるべき利用体験ランクが複数になることから他ルートの状況も考慮した上で判断する。最終的には、区間ごとに施設整備と維持管理は定めるものの、ルート全体では「あるべき利用体験」の提供ができるように作成することを目標とする。

作成にあたって、考え方や留意点を抽出・整理し、その考え方に基づいて区間ごとの施設整備・維持管理の水準（ランク）案を整理した。

今回検討会においては、本案についてご議論いただき、ご意見を反映した上で次回確定としたい。

以下には、現時点で想定される、考え方や留意点と、その考え方に基づいて区間ごとの施設整備・維持管理の水準（ランク）案を示す。

1. 考え方や留意点

- ・施設の整備・管理方針・方策は「区間」ごとに考える。
- ・各登山ルートの「あるべき利用体験ランク」を踏まえる。
- ・あるべき利用体験ランクが重複していない区間の水準は、施設整備や管理方針が限定されやすくなることから、検討の最初に定める。
- ・あるべき利用体験ランクが重複している区間（縄文杉線、宮之浦岳線ほか）の水準は、他ルートの状況も考慮した上で判断する必要がある、議論を必要とすることから、検討の中盤以降に定める。
- ・ランクの違うルートが重複する区間の整備・管理水準設定については、以下のようにいくつかの考え方があるが、本整備・管理水準設定にあたっては、ROSの考え方も考慮しつつ、それぞれの区間に応じた屋久島なりのROSを考えていく。

① ROSに準じた考え方では、重複する箇所は原生的な水準となる。

② 遺産区域内外にかかわらず、現在の設備（避難小屋、トイレ、歩道）を維持するとするなら、都市的な水準寄りになる。

【注】ROS（Recreation Opportunity Spectrum）とは、様々な利用者が様々なレクリエーション体験を求めていることを前提に、レクリエーションエリアをいくつかのゾーン毎に段階に分けて区分し、ゾーン区分に応じた整備や管理を行ったり、利用者に自然体験を提供する、エリアの管理手法の一つ。

2. 区間ごとの施設整備・維持管理の水準（ランク）（案）

前述した考え方や留意点を踏まえて、想定される区間ごとの施設整備・維持管理の水準（ランク）を当てはめた（表 2）。利用体験ランクと、区間ごとの施設整備・維持管理の水準（ランク）に差が生じる場合には、選定理由と留意点を示している（表 1）。第 1 回検討会では、表 2 をベースにして議論したいと考えている。

表 1 登山道ごとの施設の整備・管理方針・方策（区間ごとの施設整備・管理水準）の検討資料イメージ

No.	ルート	利用体験 ランク	区間 ランク	区間 番号	区間	施設・管理 区間ごとの水準選定理由	留意点
1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 ・現状の利用状況、想定される利用者層（ハイカー・登山入門者）より、出入口には既設トイレを設置となるランク2を想定。	5年～10年の水準より、更に先ではランク3のトイレ・携帯トイレブースの設置とすることを目標とする
			3	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～縄文杉)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。	5年～10年の水準より、更に先ではランク3のトイレ・携帯トイレ

表2 区間ごとの区間ごとの施設整備・維持管理の水準(ランク)を当てはめ(案)

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持 管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点	
1	荒川口～縄文杉 往復 (日帰り)	荒川口⇒大株歩道入口⇒縄文杉 (往復) 日帰り	3	2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 ・利用体験ランク4 (No2、5、6、29ルート)と重複する ・縄文線の年間利用者数は約6万人程度で、レク森を除くルートでは最も利用者数が多い ・携帯トイレではなく出入口の既設トイレの利用が多い ・利用者層はハイカーや登山入門者が8割を占めている この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多く、5年～10年程度はこのような利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク2を想定。	定期的なビジョン見直し(5年もしくは10年ごと)の際には、ランク3のトイレ・携帯トイレプースの設置となることを目標とする	
					8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)			
2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	荒川登山口⇒大株歩道入口⇒ 縄文杉⇒高塚小屋⇒楠川分かれ⇒白谷 雲水峡入口 (1泊、高塚小屋宿泊)	4	2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多く、5年～10年程度はこのような利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク2を想定。	定期的なビジョン見直し(5年もしくは10年ごと)の際には、ランク3のトイレ・携帯トイレプースの設置となることを目標とする	
					3	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)		以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・利用体験ランク3 (No1ルート)、利用体験ランク4 (No5、6、29ルート)と重複する ・利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多い この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多く、5年～10年程度は利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク3を想定。
									4
					1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)		以下の点を考慮し、ランク1を想定。 ・レク森である ・弥生杉コースの利用は年間28,000人程度ある ・歩道の大部分は木道整備されており、歩行しやすい ・雨よけ対策程度の装備 ・幅広い年齢層が偏り無く利用しており、登山経験の浅い利用者が半数を占めている ・レク森(白谷雲水峡)の中でも、特に体力の自信のない利用者にも推奨しているコース この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No19ルート)としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。
									2
2	3-1③	白谷雲水峡 (白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 ・レク森である ・木道整備されてなく、道迷いする場合がある ・雨除け、道迷い対策程度の装備 ・幅広い年齢層が偏り無く利用しており、登山経験の浅い利用者が半数を占めている ・レク森(白谷雲水峡)の中でも、弥生杉コースよりは利用者の体力を必要とするコース この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク2 (No21ルート)としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設整備・維持管理とする。						

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持管理 ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点
3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	淀川入口⇒花之江河⇒黒味岳 (往復) 日帰り	3	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用体験ランク4 (No4、5、6、29ルート)、利用体験ランク5 (No8、9、25、27、28ルート)と重複する ・利用体験ランク4 (No4ルート、宮之浦岳日帰り)としての利用が最も多い ・奥岳に続く区間 この区間は利用体験ランク3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4ルート、宮之浦岳日帰り)の利用が最も多いことから、利用体験ランク4程度の利用者に合わせた施設整備・維持管理とする。 また、奥岳の原生性を担保するためにも、施設整備・維持管理は原生よりのランク4とした。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
					8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用体験ランク4 (No4、5、6、29ルート)、利用体験ランク5 (No8、9、25、27、28ルート)と重複する ・利用体験ランク4 (No4ルート、宮之浦岳日帰り)としての利用が最も多い この区間は利用体験ランク4、5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4ルート、宮之浦岳日帰り)の利用が最も多いことから、利用体験ランク4程度の利用者に合わせた施設整備・維持管理とする。	
					8-6	宮之浦線 (黒味分れ～黒味岳)		
4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	淀川入口⇒花之江河⇒宮之浦岳 (往復) 日帰り	4	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)		定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)		
5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒縄文杉⇒荒川口 (1泊、新高塚小屋・高塚小屋宿泊)	4	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)		定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)		
				4	8-3	宮之浦線 (高塚小屋～焼野三叉路)		
				3	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多いことから、ランク3を想定。	
				2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り)としての利用が最も多く、5年～10年程度はこのような利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク2を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと)の際には、ランク3のトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持管理 ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点		
6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒縄文杉 ⇒楠川分かれ⇒白谷雲水峡入口 (1泊、新高塚小屋・高塚小屋宿泊)	4	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク3を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする		
					8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)				
					8-3	宮之浦線 (高塚小屋～焼野三叉路)				
					8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)				
					8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)			以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り) としての利用が最も多く、5年～10年程度はこのような利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク2を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク3のトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
					3-2	楠川線 (辻峠～楠川分れ)				
					3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)			以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No19ルート) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
					3-1②	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)				
3-1③	白谷雲水峡 (白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)									
7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	永田歩道入口～永田岳 (往復) (1泊、鹿之沢小屋宿泊)	5	5	4-1	永田線 (永田歩道入口～竹の辻)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする		
				5	4-2	永田線 (竹の辻～鹿之沢小屋)				
				5	4-3	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳)				
8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒永田岳 ⇒鹿之沢小屋⇒花山歩道入口 (1泊、鹿之沢小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする		
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)				
				5	4-4	永田線 (永田岳～焼野三叉路)				
				5	4-3	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳)				
				5	5	花山線 (花山歩道入口～鹿之沢小屋)				

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持 管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点
9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩 道入口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒永田岳 ⇒鹿之沢小屋⇒永田歩道入口 (1泊、鹿之沢小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し(5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	
				5	4-4	永田線 (永田岳～焼野三叉路)		
				5	4-3	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳)		
				5	4-2	永田線 (竹の辻～鹿之沢小屋)		
				5	4-1	永田線 (永田歩道入口～竹の辻)		
10	モッコム岳往復 日帰り	タナヨケ歩道入口⇒モッコム岳 (往復)日帰り	3	3	11	モッコム岳線		
11	愛子岳往復 日帰り	愛子岳歩道入口⇒愛子岳山頂 (往復)日帰り	4	4	2	愛子岳線		
12	龍神杉往復 日帰り	益救参道入口⇒龍神杉 (往復)日帰り	4	4	1	龍神杉線		
13	ヤクスギランド30分・50分コース	ヤクスギランド入口⇒ヤクスギランド 30分コース・50分コース⇒ ヤクスギランド出口 日帰り	1	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)		
14	ヤクスギランド80分コース	ヤクスギランド入口⇒ヤクスギランド 80分コース⇒ヤクスギランド出口 日帰り ※30分・50分コースの重複区間あり	2	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 ・レク森である ・30分、50分コースの利用は年間45,000人程度ある ・歩道の大部分は木道整備されており、歩行しやすい ・雨よけ対策程度の装備 ・利用者層としては60代以降の利用が4割で、登山経験割合は登山経験の浅い利用者が半数を占めている ・レク森(ヤクスギランド)の中でも、特に体力の自信のない利用者にも推奨しているコース この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No19ルート) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)		

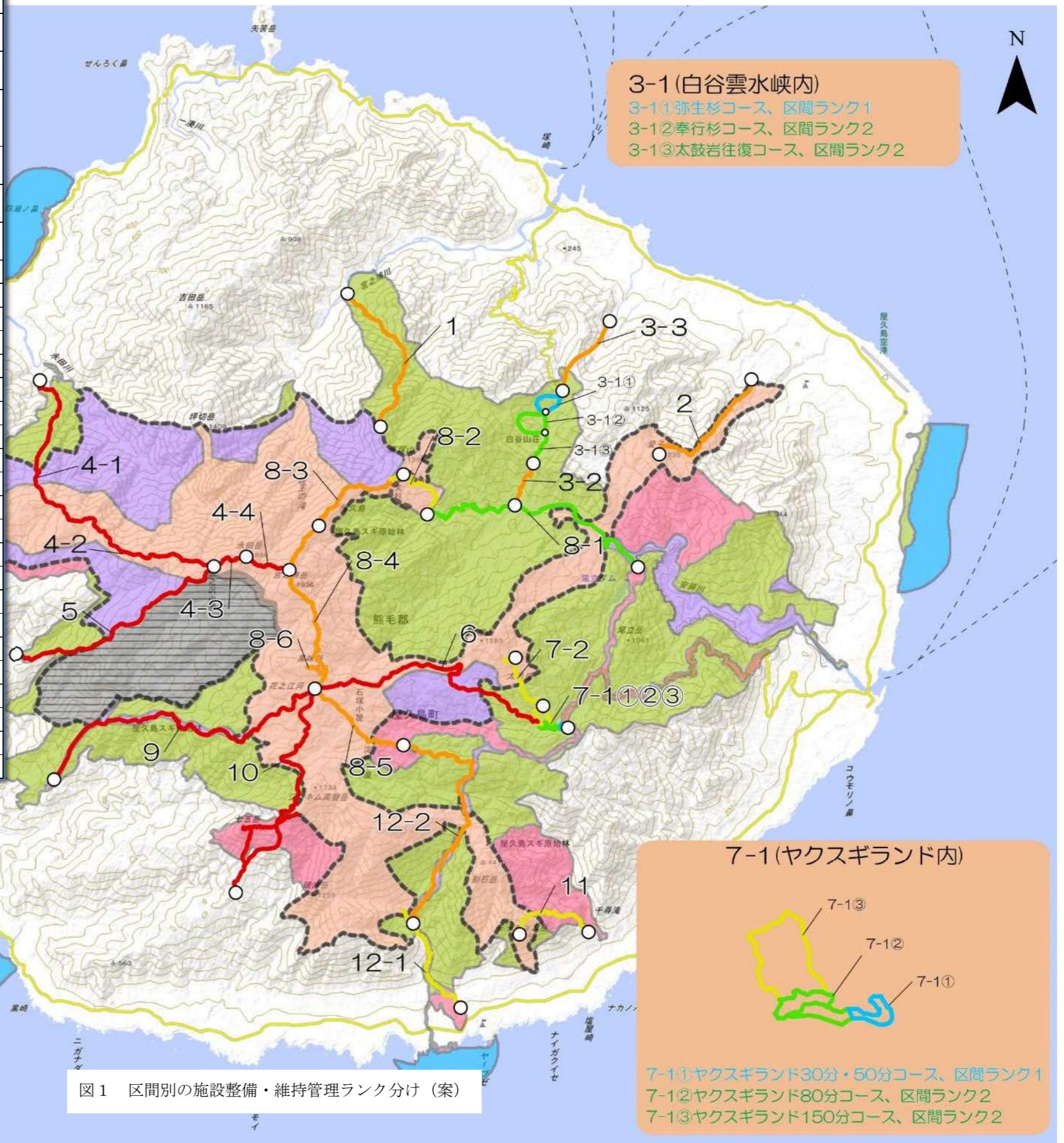
ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維 持管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点
9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒永田岳 ⇒鹿之沢小屋⇒永田歩道入口 (1泊、鹿之沢小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
15	ヤクスギランド150分コース	ヤクスギランド入口⇒ヤクスギランド150分コース⇒ヤクスギランド出口 日帰り ※30分・50分コースの重複区間あり ※80分コースの重複区間あり	2	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No13ルート) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)		
				2	7-1③	ヤクスギランド150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)		
16	ヤクスギランド210分コース	ヤクスギランド入口⇒ヤクスギランド210分コース・天文の森まで⇒ヤクスギランド出口 日帰り ※30分・50分コースの重複区間あり ※80分コースの重複区間あり ※150分コースの重複区間あり	2	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No13ルート、30分・50分コース) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)		
				2	7-1③	ヤクスギランド150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)		
				3	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 この区間は利用体験ランク1、2、5の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No17ルート、太忠岳往復) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	ヤクスギランド入口⇒太忠岳⇒ヤクスギランド出口 日帰り ※30分・50分コースの重複区間あり ※80分コースの重複区間あり ※150分コースの重複区間あり	3	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No13ルート) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 ・レク森である ・木道整備されてなく、傾斜地もある ・雨よけ対策程度の装備 ・利用者層としては60代以降の利用が4割で、登山経験割合は登山経験の浅い利用者が半数を占めている この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク2 (No14ルート) としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1③	ヤクスギランド150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 ・レク森である ・木道整備されてなく、傾斜地もある ・雨よけ対策程度の装備 ・利用者層としては60代以降の利用が4割で、登山経験割合は登山経験の浅い利用者が半数を占めている この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク2 (No15ルート) としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				3	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)		

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持 管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点
18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	ヤクスギランド入口⇒花之江河登山道 入口⇒大和杉 往復（ヤクスギランド 80分コース経由） 日帰り ※30分・50分コースの重複区間あり ※80分コースの重複区間あり	3	1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース （入口～仏陀杉～入口）	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク1（No13ルート）としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース （荒川橋～つつじ河原～仏陀杉）	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク1、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク2（No14ルート）としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				5	6	花之江河ヤクスギランド線 （登山道入口～花之江河）	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 この区間は利用体験ランク1、2、3の利用者も通過するが、利用体験ランク5（No25ルート）としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
19	白谷雲水峡 弥生杉コース	白谷雲水峡入口⇒弥生杉コース⇒白谷 雲水峡入口 日帰り	1	1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース （入口～弥生杉～さつき吊り橋～入 口）		
20	白谷雲水峡 奉行杉コース	白谷雲水峡入口⇒奉行杉コース⇒白谷 雲水峡入口 日帰り ※弥生杉コースの重複区間あり	2	1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース （入口～弥生杉～さつき吊り橋～入 口）	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1（No19ルート）としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	3-1②	白谷雲水峡・奉行杉コース （さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉 ～二代くぐり杉付近の分岐）		
21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩 往復	白谷雲水峡入口⇒辻峠⇒太鼓岩 往復 日帰り ※弥生杉コースの重複区間あり ※奉行杉コースの重複区間あり	2	1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース （入口～弥生杉～さつき吊り橋～入 口）	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1（No19ルート）としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	3-1②	白谷雲水峡・奉行杉コース （さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉 ～二代くぐり杉付近の分岐）		
				2	3-1③	白谷雲水峡 （白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩）		
22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉 行杉コース～入口	白谷雲水峡入口⇒辻峠⇒太鼓岩⇒奉行 杉コース⇒白谷雲水峡入口 日帰り ※弥生杉コースの重複区間あり ※奉行杉コースの重複区間あり	3	1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース （入口～弥生杉～さつき吊り橋～入 口）	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1（No19ルート）としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	3-1②	白谷雲水峡・奉行杉コース （さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉 ～二代くぐり杉付近の分岐）	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク2（No20ルート）としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				2	3-1③	白谷雲水峡 （白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩）	以下の点を考慮し、ランク2を想定 この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク2（No21ルート）としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維 持管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点
23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	歩道入口～蛇之口滝 往復 日帰り	3	3	12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)		
24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	淀川入口(尾之間歩道方面)⇒尾之間 歩道入口 日帰り	4	3	12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3(No23、蛇之口滝往復)としての利用が最も多いことから、ランク3を想定。	
					12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)		
25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ ヤクスギランド出口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒黒味岳⇒花之江河 ⇒花之江河登山道⇒ヤクスギランド出 口 (1泊、石塚小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4(No4、宮之浦岳日帰り)としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し(5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4(No4、宮之浦岳日帰り)としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	
				4	8-6	宮之浦線 (黒味分れ～黒味岳)		
				5	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)		
				2	7-1②	ヤクスギランド80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク2(No14ルート)としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
				1	7-1①	ヤクスギランド30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、5の利用者も通過するが、利用体験ランク1(No13ルート)としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。	
26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳 往復 日帰り	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳山頂 往復 日帰り	5	5	10	湯泊線 (登山口～花之江河)		
27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩 道入口 1泊	淀川入口⇒花之江河⇒石塚小屋⇒烏帽 子岳・七五岳⇒湯泊歩道入口 (1泊、石塚小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4(No4、宮之浦岳日帰り)としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し(5年もしくは10年ごと)の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレブースの設置となることを目標とする
				5	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)		
				5	10	湯泊線 (登山口～花之江河)		

ルート No.	ルート	行程 ルート別	利用体験 ランク ルート別	施設整備・維持 管理ランク 区間別	区間 番号	区間	施設整備・維持管理 区間ごとのランク選定理由	留意点	
28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	淀川入口⇒花之江河⇒石塚小屋⇒旧栗生歩道入口 (1泊、石塚小屋宿泊)	5	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 この区間は利用体験ランク5の利用者も通過するが、利用体験ランク4 (No4、宮之浦岳日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク4を想定。	定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレプースの設置となることを目標とする	
				5	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)			
				5	9	栗生線 (旧栗生歩道入口～花之江河)			
29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒縄文杉⇒楠川分かれ⇒楠川歩道入口 (1泊、新高塚小屋・高塚小屋宿泊)	4	4	8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河)		定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク5に近いトイレ・携帯トイレプースの設置となることを目標とする	
				4	8-4	宮之浦線 (花之江河～焼野三叉路)			
				4	8-3	宮之浦線 (高塚小屋～焼野三叉路)			
				3	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 この区間は利用体験ランク4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り) としての利用が最も多いことから、ランク3を想定。		
				2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク3 (No1ルート、縄文杉日帰り) としての利用が最も多く、5年～10年程度はこのような利用が継続すると想定されるため、施設整備・管理管理はより「安全、快適、便利」となるランク2を想定。		定期的なビジョン見直し (5年もしくは10年ごと) の際には、ランク3のトイレ・携帯トイレプースの設置となることを目標とする
				4	3-2	楠川線 (辻峠～楠川分れ)			
				1	3-1①	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	以下の点を考慮し、ランク1を想定。 この区間は利用体験ランク2、3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク1 (No19ルート) としての利用が最も多いことから、ランク1程度の利用者に合わせた施設・管理とする。		
				2	3-1②	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク2 (No20ルート) としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。		
2	3-1③	白谷雲水峡 (白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)	以下の点を考慮し、ランク2を想定。 この区間は利用体験ランク3、4の利用者も通過するが、利用体験ランク2 (No21ルート) としての利用が最も多いことから、ランク2程度の利用者に合わせた施設・管理とする。						
4	3-3	白谷雲水峡入口～楠川歩道入口							

区間ごとの 施設整備・管理 ランク	区間No.	路線名	区間経路
1	3-1①	白谷雲水峡	弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)
	7-1①	ヤクスギランド	30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)
2	3-1②	白谷雲水峡	奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代ぐり杉付近の分岐)
	3-1③	白谷雲水峡	太鼓岩往復コース (白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)
	7-1②	ヤクスギランド	80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)
	7-1③	ヤクスギランド	150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)
	8-1	縄文杉線	荒川登山口～大株歩道入口
3	7-2	太忠岳線	蛇紋杉～太忠岳
	8-2	縄文杉線	大株歩道入口～高塚小屋
	11	モッコム岳線	登山口～モッコム岳山頂
	12-1	尾之間線	登山口～蛇之口滝
4	1	龍神杉線	登山口～龍神杉
	2	愛子岳線	登山口～愛子岳山頂
	3-2	楠川線	辻峠～楠川分れ
	3-3	白谷雲水峡	白谷雲水峡入口～楠川歩道入口
	8-3	宮之浦線	高塚小屋～焼野三叉路
	8-4	宮之浦線	花之江河～焼野三叉路
	8-5	宮之浦線	淀川登山口～花之江河
	8-6	宮之浦線	黒味分れ～黒味岳
	12-2	尾之間線	蛇之口滝入口～淀川登山口
	5	4-1	永田線
4-2		永田線	竹の辻～鹿之沢小屋
4-3		永田線	鹿之沢小屋～永田岳
4-4		永田線	永田岳～焼野三叉路
5		花山線	花山歩道入口～鹿之沢小屋
6		花之江河ヤクスギラン	登山道入口～花之江河
9		栗生線	旧栗生歩道入口～花之江河
10		湯泊線	登山口～花之江河



利用体験 ランク	No.	ルート
1	13	ヤクスギランド30分・50分コース
	19	白谷雲水峡 弥生杉コース
2	14	ヤクスギランド80分コース
	15	ヤクスギランド150分コース
	16	ヤクスギランド210分コース
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩 往復
3	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
	10	モッチョム岳往復 日帰り
	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
4	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
	11	愛子岳往復 日帰り
	12	龍神杉往復 日帰り
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊
5	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊
	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊
	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊

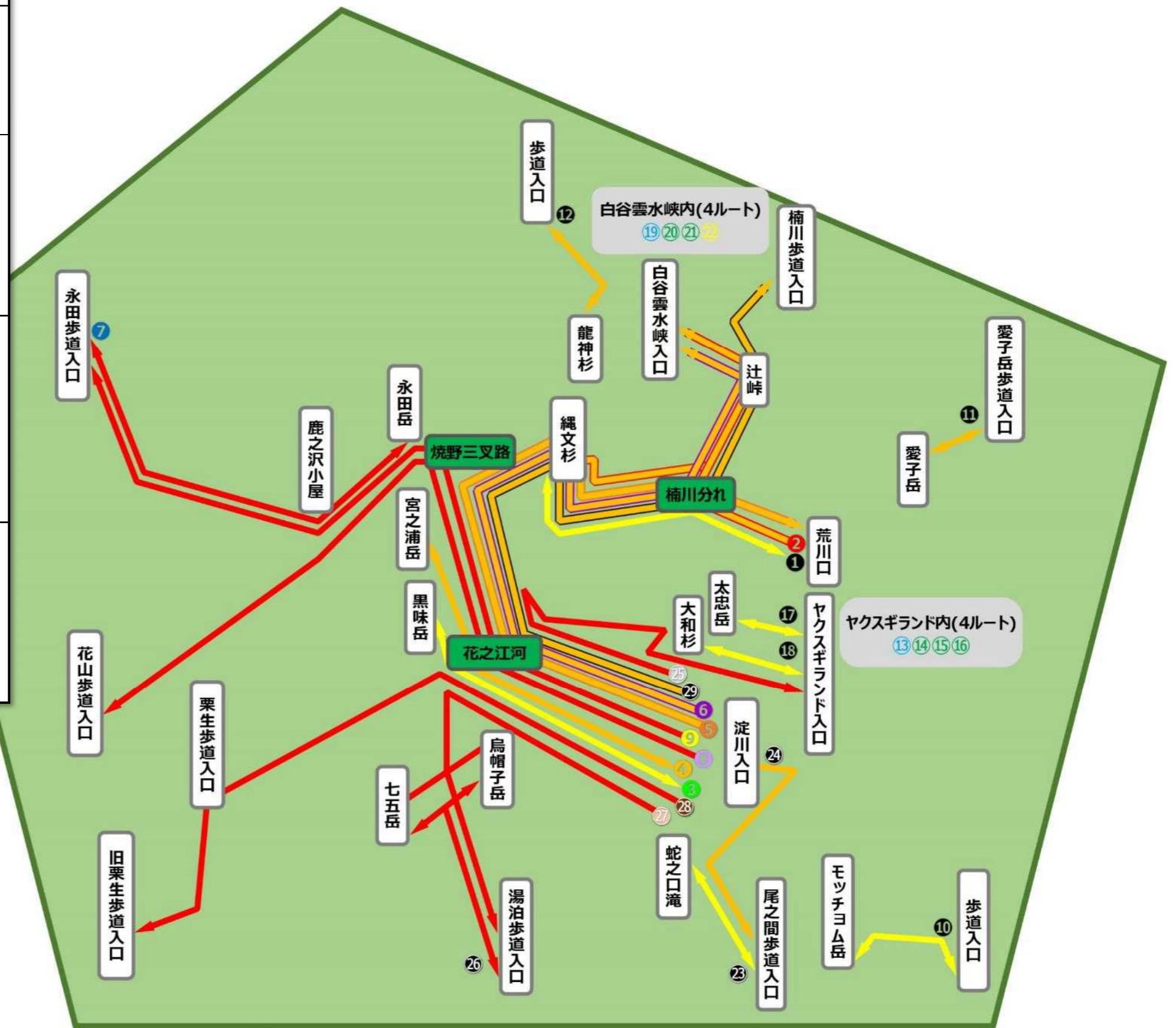


図2 対象登山ルートへのルート図（あるべき利用体験ランクにより色分け）

「利用者管理とサービスの提供」作成の考え方(案)

主に、利用者が自らの判断でルート選択、登山計画や準備ができるよう、ルートとその難易度、利用ルールなどの適切な登山情報（利用体験ランク、登山時間、施設案内、降雨時の注意喚起）の提供について検討し作成する。具体的には、全国の事例や利用者と接する機会の多い検討会・作業部会の構成メンバー（屋久島山岳ガイド連盟、観光協会ガイド部会、ガイド事業者）からの意見を参考にしつつ、ルートごとの利用体験ランクと、具体的な登山情報（区間ごとの難易度、体力度、コースタイム、標高差、道迷いの発生リスク、行程概要など）の提供によって遭難や事故防止に寄与させること等を考慮し作成する。

作成については、考え方や留意点を検討会で抽出・整理してから、進めていく。

以下には、現時点で想定される、考え方や留意点と、検討に向けた資料（イメージ）を示す。

1. 考え方や留意点

- ① ルートごとに考える
- ② 【5.適正利用のためのあるべき利用体験ランク設定】を基に考える
- ③ 一般的な利用に向けて、利用者が求める情報、提供すべき情報を整理する
- ④ 情報提供の手法の整理
- ⑤ ①②③④を踏まえて、一般的な利用できるように、追加・修正を加える

2. 他地域の登山情報（利用体験ランク、登山時間、施設案内、降雨時の注意喚起）の提供事例

■大雪山国立公園

登山道の区間毎に、登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安（区間における行動判断の要求度や難易度）や登山で体験する雰囲気等の程度（区間における「原始性」、「静寂性」又は「気軽さ」などから体験するもの）を「グレード1」から「グレード5」までの5段階にわけた「大雪山グレード」を設定している。

「大雪山グレード」

	グレード 5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート ・地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉 [※] や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート ・自然の雰囲気 [※] の保持を最優先とした登山ルート ・登山者自らのリスク管理が必須とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート
	グレード 4	大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート ・地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート ・自然の雰囲気 [※] の保持を最優先とした登山ルート ・登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート
	グレード 3	大雪山の自然を体感する登山ルート ・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート ・歩行の快適性よりも自然の雰囲気 [※] の保持を優先した登山ルート ・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート
	グレード 2	大雪山の自然とふれあう軽登山ルート ・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート ・段差処理 [※] 、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート
	グレード 1	大雪山の自然とふれあう探勝ルート ・温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート ・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート

大雪山グレード




0 5 10 km



- 大雪山グレード (利用体験ランク)**
- グレード5 『大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート』
 - グレード4 『大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート』
 - グレード3 『大雪山の自然を体験する登山ルート』
 - グレード2 『大雪山の自然とふれあう軽登山ルート』
 - グレード1 『大雪山の自然とふれあう探勝ルート』
 - 非適用 (登山道として供用していません)
- 注) グレード5のうち各種表示のルートは次のとおりですので、注意して下さい。
 ・台地ゲートから三川台のルートは、一般供用された登山道ではありません。
 所定の手続きをとり、自己責任で利用して下さい。
 ・三笠新道分岐から高根ヶ原分岐の三笠新道は、ヒグマの採餌地を横断する道であることから、ヒグマとの接触防止のため、毎年ヒグマの定番が確認される7月初旬以降登山道を閉鎖しています。利用期間は例年5月中旬から7月初旬と極めて限定的で、状況により利用するルートとなります。
- 主なアクセス道**
- 国道・道道
 - 町道
 - ロープウェイ・ベアリフト
 - 林道 (● 施設ゲート) (● 現在通行止)

《大雪山グレードの適用事例》

グレード5の事例：オプタテシケ山～三川台～トムラウシ山

	グレード 5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート <ul style="list-style-type: none"> • 地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート • 自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート • 登山者自らのリスク管理が必要とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート
---	-------------------	--

この区間は、大雪山国立公園の中でも最も人為的な整備が少ない登山道で、分岐における指導標識、主たる山に設置された山頂標識以外の人工構造物は設置されていません。遅くまで大きな雪渓が残る箇所やヤブ化した区間があり、ヒグマも多く生息しています。

ルート途中に野営指定地はあるものの、避難小屋はありません。登山口から遠くエスケープルートもない区間であるため、行程管理、天候判断等きわめて高度な行動判断が要求されるルートです。

原始性の高い自然の雰囲気保持を最優先とし、指導標識等の既存施設の確認等必要最小限の管理を行っています。



■長野県と長野県山岳遭難防止対策協会

平成22年から山岳遭難事故が高い水準で発生していることから、主に登山者の山岳遭難を防止するため、「山のグレーディング（登山ルートの難易度）」を行って情報提供することで、登山者が「自分の力量にあった山選び」ができるようになり、山岳遭難の防止に寄与するものとなっている。

長野県から始まったグレーディングは、新潟県・山梨県・静岡県にも普及し、共同グレーディング基準を定め、この基準に基づいて登山ルート进行评估している。

信州 山のグレーディング 一覧表

- ルート定数……コースタイム(時間)×1.8+ルート全長(km)×0.3+累計登り標高差(km)×10.0+累計下り標高差(km)×0.6
- そのルートを登山する場合の消費エネルギー(kcal)……ルート定数×(自分の体重(kg)+ザックの重量(kg))
- 体力度レベルはルート定数を基礎として設定しています

作成：長野県山岳総合センター（信州体育大学 山本正憲教授の研究成果をもとに作成しました）
監修：長野県山岳遭難防止対策協会

(注) ※1当該ルートは体力度4(1治以上が適当)ですが、ルート中に宿泊できる小屋やテント場がありませんので、登山者によっては日没までに下山できなくなる恐れがありますのでご注意ください。
※2当該ルートは体力度3(日帰りが可能)ですが、登山口までのアクセスに時間を要するため、日帰りが困難な場合があります。宿泊を前提にした計画をお勧めします。
※3当該ルートは火山またはその周辺の山です。登山前に火山情報を確認しその指示にしたがってください。

北アルプス

ルート名称	体力度レベル	難易度レベル	スタート地点 地 名 標高(m)	ルート中の最高地点 地 名 標高(m)	終了地点 地 名 標高(m)	合 計 コース タイム	ルート全 長(km)	登り 標高差 (km)	下り 標高差 (km)	ルート 定数	マーキング難
1 有明山(中岳)	3	C	有明荘 1,393	有明山 2,268	有明荘 1,393	7.0	5.3	0.98	0.98	24.5	
2 蔵裏銀座(高瀬ダム・上高地)	10	C	高瀬ダム 1,271	槍ヶ岳 3,180	上高地 1,504	32.3	47.8	3.84	3.60	113.1	
3 烏帽子岳(高瀬ダム)＜ブナ立尾根＞	4	C	高瀬ダム 1,271	烏帽子岳 2,628	高瀬ダム 1,271	9.8	12.1	1.55	1.55	37.8	
4 奥穂高岳(上高地)＜遊沢＞	7	C	上高地 1,504	奥穂高岳 3,190	上高地 1,504	17.7	36.6	2.08	2.08	64.8	
5 蔵裏銀座(中瀬温泉・上高地)	9	C	燕岳登山口 1,455	槍ヶ岳 3,180	上高地 1,504	25.3	37.5	3.07	3.02	89.2	

「信州山のグレーディング」で紹介されている 102 ルートの内容と、各登山道のピッチごとの難易度は「ヤマレコ」と連携して提供している。

1. 赤岳（県界登山口）

注意：グレード表記について

難易度と体力度は無雪期・好天時を前提とした目安であり、同じグレード表記でも登山道の状況や天候などの条件によって実際のグレードは大きく変わります。必ずご自身で各登山道の最新の情報を調べた上で、山を楽しんでください！

難易度	難易度D ★★★★★☆(4)
体力度	体力度4 [1泊以上が適当]
合計コースタイム	8.1時間
ルート長	11.1km
累積登り標高差	1280m
累積下り標高差	1280m
行程概要	県界登山口 (1650m) → 赤岳 (2899m) → 県界登山口 (1650m)

